

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4 → 6 ・ 4 5 通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

3.11 から5年目を迎えました。東日本大震災以来、多くの方が被災者支援のために、力をおし
まず支援してくださいました。ボランティアに来てくださった方々、カトリック教会の信徒の方々、
そのご家族の方、カトリック学校の先生や生徒さん、ご父兄の方々、その他数え切れないほどの
多くの方々、本当にありがとうございます。そして、今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げ
ます。今回は、被災地ツアーにご参加くださいました方の記事と、亘理で活動を続ける八木山オ
リーブの会のご紹介をしております。ぜひご覧ください。

2016年2月22日～24日、被災地視察ツアーBコースが実施されました。今回は、北は青森県、南は兵庫
県から、総勢7名の方にご参加いただきました。大まかな行程は、以下の通りです。

- 1日目：2月22日（月）宮城県亘理町、石巻市方面視察 ※宿泊：石巻ベース
- 2日目：2月23日（火）宮城県南三陸町方面視察 ※宿泊：原町ベース
- 3日目：2月24日（水）福島県南相馬市、浪江町、大熊町、富岡町、いわき市方面視察

宮城県・福島県の被災地視察 Bコースに参加して

カトリック三沢教会 中野渡勝弘

最初に訪れた宮城県亘理町・山元町については、広範囲にわたって被災していたにもかかわらず、他地域の被害があまりに酷かったためかほとんど報道されていませんでした。海岸線に並行して走る高速道路の盛り土が、平野の奥に津波が流れ込むのを遮ったとのこと。昨年あたりから稲作が復活し、いちご栽培も定着し始めてきているという説明を聞いて気持ちが明るくなりました。トレーラーハウス・レストランで食べたランチは、とても美味しかったです。



宮城県山元町立中浜小学校旧校舎 校舎2階の天窓付近まで浸水。震災遺構として町が保存を検討中。

JR 石巻駅周辺の市街地は、以前の生活を取り戻したように見えますが、日和山(ひよりやま)公園の眼下にひろがる海側の光景には言葉を失いました。瓦礫はすっかり片づけられ、大規模な整地が進められています。広大なエリアをかさ上げするための土があちこちに積み上げられていて、完成までの膨大（膨大）な労力を思いました。石巻ベースのスタッフとボランティアに、今回の

ツアー参加者7名が加わっての分ち合いがあり、夕食後は近くの銭湯に出かけました。日常的な時間の流れに、ほっとしました。

2日目(2月23日)は、予定に入っていなかった大川小学校に回っていただけることになりました。被災した校舎はそのまま、あの日から時間が止まっているかのようでした。4年前まで小学校の教員をしていた私には、そこでの子どもたちの日々の生活が目には浮かび、近くに建てられている慰霊碑に皆で祈りを捧げた時も、涙が止まりませんでした。



宮城県石巻市立大川小学校旧校舎 建物の保存か解体かの結論が2016年3月末にも出る予定。

南三陸町はかさ上げ工事の真っ最中で、メキシコのテオティワカン遺跡に迷い込んだような気がしました。昼食にプレハブ商店街の食堂で食べた刺身定食は味・量ともに大満足。芸能人たちも訪れているらしく、従業員とのツーショットがあちこちに飾ってありました。写真の笑顔に、こちらの口元もゆるみました。

夕刻、複数の女子修道会のシスターたちが協力し、奉仕している南相馬市にある原町ベースに到着。分ち合いでのお話に厳粛な気持ちになり、心尽くしの夕食には心が温まりました。食後の皆さんの後片付けの手際よさには、敬服。ボランティアさんたちは、リピーターのようでした。銭湯で体を温めた帰り道、地域が静かすぎることに気付きました。まだ、避難先から戻っていない家庭があるからなのでしょう。一日も早く、元の賑わいを取り戻して欲しいと願いました。

3日目(2月24日)は、車の窓をしっかりと閉めて、国道6号線を一路南下。帰還困難地域を通過すると、測定器の放射線量の数値が急激に上がり、周辺に漂っている目には見えない物質の存在を意識させられました。道路沿いの柵を巡らされた住宅、商業施設、畑の向こうの戸建ての家のどこにも人影はなく、住民がいなくなった街が、こうも寂しいものかと思いました。除染で出た廃棄物の黒い袋(1トン入り)が、無数に積み上げられている場所を目にするたびに、最終処分場(?)に思いを巡らせました。“この地域の完全な「復旧」が成るまで、3・11の後始末は終わらない”ことを、福島からの電力供給の恩恵に浴しながら首都圏で暮らしていた者の一人として、心に留めていなければならないと考えながら帰路に着きました。



宮城県南三陸町防災対策庁舎

周辺は嵩上げ工事が進んでおり、2016年4月～2年間、立入禁止の予定。



常磐道 モニタリングポストによる測定結果

広野～南相馬の各IC間に3箇所ずつモニタリングポストが設置されている。



被災地ツアーに関する写真は、大阪教区の千里ニュータウン教会の箱田昌平・貴代子さんからご提供いただきました。

落語・生け花・送別会

いろいろなことがあった2月、3月

八木山オリーブの会

野田 和雄

2月10日、亘理公共ゾーン第3集会場で、八木山オリーブの会主催の落語会が開かれました。集会所に高座を作り、緋もうせんが敷かれ、厚めの座布団とめくり台が置かれると、仮設寄席のできあがりです。落語会は、オリーブの会が行うだけでも4回目なので、準備する皆さんも手慣れたものです。

この日は、公共ゾーンで私たちの集まりがあるというのを聞いた亘理警察署の署長さんと新人警察官のお2人が来られ、まず「はらこめし運動」と銘打った振り込め詐欺防止キャンペーンのお話をしてくださいました。

その後、いよいよ落語家の登場です。ラジカセによるお囃子のメロディーに乗って登場したのは、東北大学落研の3人の皆さん。この方々の芸名は「宿栄家じゃんぷ」「広瀬川花石」「海亭ペンぎん」で、古典落語を披露してくださいました。

お巡りさんたちも、笑顔で聞いていましたが、集まった被災者の方々も、学生さんの熱演に、笑いと拍手が続きます。集会所に、楽しい笑顔と笑い声が広がりました。高齢の女性が若い学生さんたちから、元気と笑いをもらっているようです。

笑うと、のどが渇き、お腹もすいてきます。寄席の後は、いつもの「お茶っこ」です。演技を終えた学生さんも加わり、楽しい話がはずみます。「あそこはおかしかった」「あの話はうまかったネ」と、出演者を囲んでの話にも、笑顔があふれています。笑って、気持ちがほぐれるせいか、本音がポンポン飛び出てきます。「あと何回、ここに来られるのかなあ」「また来たい！」自宅で寂しい思いをしている人ほど、笑いとお話と楽しいお昼ごはんを待っているようです。

「あと何回来られるか？」それは、私たちへの問いであると同時に、被災者の気持ち、希望でもあるようです。いつものように、教会へ戻り、学生さんたちも含め、振り返りをいたしました。出演者は、聴衆からの生の反応が聞けて、とても喜んでいました。



2月24日、桃の節句を前にして、生け花の集まりを亘理公共ゾーン第3集会所で、オリーブの会主催で行いました。40人分のお花を持ち込むのも大変でしたが、花器の準備、ハサミの配慮など、準備スタッフも大忙しです。

被災者の皆さんも、桃の花を使ってのひな祭り用の花をどう生けるのか、桃の花を中心に他の花の色や形を工夫して生けていきます。生け花が進んでいくにつれて、殺風景だった仮設集会所には、桃のつぼみが並び、美しい花々が色鮮やかに咲き始めます。かすみ草の淡い白が加わる頃には、集会所全体がお花畑になったように、美しく、楽しい気持ちになってきます。

外は雪が舞うような天気でしたが、集会所には春がきました。皆さんが桃の花と格闘している間に、春の陽射しがまぶしくなってきました。「お花に負けない笑顔でハイポーズ」と若いカメラマンがテーブルを巡ります。

お花を少し横に置き、さあこれから「お茶っこタイム」の始まりで～す。いつのまにか、笑顔と遠慮のないお話が始まり、楽しいうち解けた気持ちになっていきます。お菓子をいただきながら、もうおしゃべりが始まっています。こんな時には、ホセ神父様へ、歌のリクエストがあるの



(左)各テーブルがお花畑のようになりました
(中央)ホセ神父様とのお話を楽しむ方々
(右)亘理教会で、ミサ後に記念撮影



です。「今日は、皆様にお知らせがあります」とホセ神父様が話し始めました。「私は、遠いローマへ行くことになりました。今日はお別れの気持ちを込めて、いつもの歌を歌います」。

皆さんは、とても残念がって、お別れするのが寂しいと言っていました。神父様の歌が始まると、手拍子を打ち、スペイン語の歌や日本語の歌を合唱しました。

お昼ご飯をいただきながら、「故郷に帰るの?」「なんで、そんなに遠くにいくの?」「また日本に戻ってくるの?」と皆さん心から心配していました。

ホセ神父様へ「故郷の歌」と活動記念アルバムをお贈りして、「被災者を笑顔にさせた写真がたくさん載っているアルバムを、ローマまで持って行ってくださいね、ホセ神父様!」の声とともに、お花の会とホセ神父様の送別会を終了しました。

同日、仮設訪問の後、亘理教会で八木山オリーブの会は、「ホセ神父様、送別会のミサ」に参加しました。亘理教会のご厚意により、木曜日のミサを1日繰り上げてのミサでした。

亘理教会聖堂には、八木山、亘理、元寺小路、マリアの宣教者フランシスコ会のシスターたちを合わせて30人近くの人が集まり、満席です。前列の人の足は、祭壇に届くほどになっていました。亘理の仮設訪問には、いつも参加して下さり、ホセ神父様の歌が欠かせないほど人気があり、皆さんに親しまれていました。時には神学生を伴い、時には海苔工場を見学するというオリーブの会とともに歩いていただき、感謝しています。

「白石城のお花見」は、「私の家に招待します!」というホセ神父様の一言で実現しました。東京教区を含む、多くの参加者が、被災者と共に、花びら舞い散る春を楽しみました。ホセ神父様がささげてくださるミサは、オリーブの会の節目ごとに行われ、私たちの心の支えとなっています。共同祈願で感謝し、神父様とオリーブの会のこれからの歩みのために祈りました。

ミサ後の茶話会では、ローマに行ったあと、「イタリア語の勉強をはじめ、多くの課題があるので、私のために祈ってください」とホセ神父様から依頼されました。記念に、私たちの思いを書いた色紙をお贈りしました。

神父様! 私たちのことも忘れないで、必ず日本に帰って来てください。お祈りしています!

【おわび】 33号掲載の鶴見教会の街頭募金をしてくださったのは、BS73団でした。おわびして訂正いたします。